

小平の窪地と「だいだらぼっち」伝説

小平の地名の由来は、土地が平らであることから名付けられたと伝わっています。しかし、市内には窪地と呼ばれる周囲よりも低くなっている土地が多くあり、人々の生活に密接に関わっていました。

「だいだらぼっち」は伝説の巨人で、日本各地にさまざまな伝承が残っています。天神塚、平安塚、山王塚など点々と続く市内の窪地は、だいだらぼっちが富士山に向かって歩いた足跡だと話されています。その後元禄9年(1696)には田無用水、享保年間(1729~1734)には鈴木新田用水、野中新田用水、大沼田新田用水、関野新田用水が分水されました。用水の目的は生活用水(飲み水)でした。用水ができたことで飲み水が安定的に確保され、人々が生活できるようになりました。また、明治3年には分水口を1つにまとめるために、新堀用水も掘られました。

小平の用水は、昭和34年に水道が完備するまで広く生活用水として使われていました。その使命は終わりましたが、多摩川の自然水が現在も流れています。平成15年に国史跡に指定された玉川上水をはじめ、小平にはたくさん生き物が生息する用水路が約50kmに残っています。また、市の条例により環境用水として大切に保存されています。

※現在、玉川上水は昭和61年清流復活事業により小平監視所から下流の水の処理水が流れています。

小平の用水

江戸幕府が開かれ、急に増えた江戸の人々へ飲み水を送るため、承応3年(1654)、羽村から玉川上水が引かれました。これにより各地に分水することも可能となり、武蔵野台地の開発に大きく貢献しました。小平では、明暦2年(1656)、「逃げ水の里」などと呼ばれ、行き倒れになる人も出るほど水の乏しかった土地に小川用水を引きました。その後元禄9年(1696)には田無用水、享保年間(1729~1734)には鈴木新田用水、野中新田用水、大沼田新田用水、関野新田用水が分水されました。用水の目的は生活用水(飲み水)でした。用水ができたことで飲み水が安定的に確保され、人々が生活できるようになりました。また、明治3年には分水口を1つにまとめるために、新堀用水も掘られました。

小平の用水は、昭和34年に水道が完備するまで広く生活用水として使われていました。その使命は終わりましたが、多摩川の自然水が現在も流れています。平成15年に国史跡に指定された玉川上水をはじめ、小平にはたくさん生き物が生息する用水路が約50kmに残っています。また、市の条例により環境用水として大切に保存されています。

※現在、玉川上水は昭和61年清流復活事業により小平監視所から下流の水の処理水が流れています。

凡例

- 窪地
- 用水路
- 暗き部分、用水路跡

アプリ(Avenza Maps)を使ってスマホやタブレットで閲覧できます！

Avenza Maps(アベンザマップス)はオフラインで使えるスマートフォンのアプリです。オフラインで使用する場合は、山の中心、海上、海外旅行でもGPS機能を使い、簡単に自分の位置を地図上で見ることが出来ます。地図はAppleの地図の活用から、以下の2つのコードをダウンロードし、アプリで(小平まち巡りコース)と検索することでダウンロード出来ます。

アプリのダウンロードは
App Store
Google Play

地図のダウンロードは

●平瀬田中彫刻美術館 tel.042-341-0098
●小平ふるさと村 tel.042-345-8155
●リナストイン・バージョン・ギャラリー tel.042-342-6363
●小平市ふれあい下水道館 tel.042-326-7411
●江戸東京たてもの園 tel.042-388-3300
●鈴木道跡資料館 tel.042-323-2233
●こもれびの足湯 tel.042-341-4345
●なまちテラス tel.042-341-0862
●森田オープンガーデン tel.090-4220-2061
●ベタニヤ館 tel.042-313-6564
●いろりの里 tel.042-321-0294